



月刊音声セミナー

村尾隆介の

出版deブランディング

9

ブランド戦略の専門家 村尾隆介

出版を考えている人、出版をステップに
自分ブランドを強化したい人に贈る、
パーソナルブランディングと出版のノウハウ。
村尾隆介の月刊音声セミナーのテキスト版！



村尾隆介

目次

- 第1章 五感で書店を感じると時代が自ずと見えてくる
思わず手に取ってみたくなる表紙
- 第2章 村尾隆介の未来の出版物を發表
答えがない時代には、愛
- 第3章 タイトルは短ければ短いほど難しい
読者の悩みを解消する誌上コンサルティング
雑誌連載でステータスを上げよう
- 第4章 村尾隆介が紹介！ 集中時のパワーソング！
ゼロスタートでつくり直す意気込みを
- ※ 本テキストは、音声セミナー「出版 de ブランディング」第9号を抜粋・編集して制作したものです。

出版でブランディングするということは、どういうことなのか？小さなブランド専門家として多くの著作を世に出し、出版プロデューサーとしても活躍する村尾隆介が出版とブランディングについて語ります。

五感で書店を感じると時代が自ずと見えてくる

思わず手に取ってみたくなる表紙

早川 プロインタビュアーの早川洋平です。村尾隆介の「出版 de ブランディング」第9回をお届けします。村尾さんよろしくお願ひします。

村尾 よろしくお願ひします。

早川 初めて聴く方のために、この音声セミナーの内容を教えてください。

村尾 このセミナーは大きく2部構成になっていまして、第1部は今後、僕が書きたい本のリストの中から、早川さんが選んだ1冊についてトークを展開します。第2部は「今後出版したい」または「出版したけどどうまくブランド化に生かせていない」方からの質問に答える形で、出版を通じてブランディングする方法についてお話ししようと思っております。

早川 出版したい方だけでなく、出版経験者でも聴く価値があるんですね。

村尾 そうですね。出版関係者だったらみなさん価値があると思います。

早川 早速ですが、最近本や書店について思うことはありますか？

村尾 僕は、書店は時代がそのまま反映される場所だと思っています。特にビジネス書の棚は、その時の日本人が不安に思っていることや得たいスキルなどが平積みになれていると思います。特に雑誌の特集やタイトルは、半年前までさかのぼると現在の傾向が見えてきます。それなので最近増えたタイトルや特集を見ていくと、今後日本が進む方向が自ずとわかると思います。

早川 本を読むのは単純に楽しいですが、時代を読むために書店に行くことも忘れないようにしたいですね。

村尾 そうですね。出版するために一番大切なのは企画を通すことです。傾向を感じながら出版社と企画の話し合いをすることも重要なので、そういう観点から書店をブラウジングしていけば出版への道はより開けると思いますが。

早川 今月、気付いたことはありませんか？

村尾 最近、ビジネス書が特にそうなのですが、表紙や中の紙質が変わってきたと思います。

リアル書店では、手に取ってもらわれない限り本は絶対に売れません。そのため、いかに手に取ってもらい、レジに持って行ってもらうか、それが重要です。そこに気付いた出版社が思わず手に取りたくなるような表紙をつくるため、紙質やデザインが変わってきたのだと思います。

欧米では表紙は広告という考え方なので、お金をかけるのは当たり前なんです。

早川 紙質とデザインが変わったというのは、端的にいうとどんな感じですか？

村尾 印刷技術の向上とそれによるコスト低減のためか、エンボス(浮き出た感じの凹凸がついたもの)が増えたと思います。これがついていると、人間の心理として触りたくなるんですね。紙も、ザラツとした紙とか産毛があったものとか思わず触りたくなるものが増えました。触ってみたいと思わせることが重要なので、すごくいいことだと思います。

早川 僕は逆に、ペーパーバックのような装丁などにまったくお金をかけない本も増えていると感じるのですが、どう思いますか？

村尾 確かに新書のように、デザインもページ数も紙質も一緒に、フォーマットに合った文字数を流し込むだけの本も増えてきています。各出版社がシリーズ化して出版しているので、まさに二極化だと思います。

早川 一つの出版社が両方の手法を使っていることもありますよね。

村尾 大きな本屋で足を止めてもらうためには、本の方から「僕を手にとって！」とメッセージを発信しなくてはならないので、紙質やデザインは重要だと思います。

早川 デザインや紙質に対して、こういうことに挑戦した、または今後やってみたいことはありませんか？

村尾 僕が3年前に出版した『安売りにくい会社はどこで努力しているか？』は表紙にもお金をかけて付録でステッカーを付けたことなどから、出版関係者の中にあの本が今の紙質ブームの先駆けだったと言って下さる方もいます。そう言ってもらえることはうれしいですね。

試してみたいことは、紙に匂いを付けることです。香り付きの紙を使って、帯に「匂いを嗅いでみてください」と書けば、みんな必ず手に取ると思いますが。実際、出版の企画にかけてコストも全部調べたことがあるのですが、他の本にも匂いが移ってしまう可能性があるためNGとなってしまうかもしれません。しかし、近々何かしらの形で五感のどこかに訴える表紙を開発したいと思っています。

サンプル版はここまでです。続きは、アマゾンにてダウンロードしてお楽しみ下さい。

出版deブランディング第9号【印刷可能PDF版プレゼント付】「Kindle版」

<http://bit.ly/muraosyuppan9>

村尾隆介の音声セミナーが2作同時リリース！

店長たちの「自分ブランド戦略」

<http://www.starbrand.co.jp/services/voice/category/tencho/>

ベストセラー『小さな会社のブランド戦略（PHP）』の著者・村尾隆介は、企業のブランディングのみならず、個人のブランド戦略にも深く関わっています。

過去10年のキャリアの中で、行き着いたひとつの結論は、「店長の姿勢や見せ方次第で大きく変わる」という点です。

キクタスのプロインタビュアー早川洋平さんと軽快なトークで、毎月お届けするこの音声セミナーは、全国の店長やマネージャークラスとして働く社
会人、店長を統括する立場にいる方や、小さな会社の経営者の質問から織り成される、いわばオンラインのコンサルディング。

通勤時はこちらのことで、職場で仲間と一緒に聞くのもオススメです。

- この音声セミナーの内容（企画や時期によって変わることがあります）
1. 最近、お店で感じた「GOOD」と「BAD」
 2. オンラインコンサルディング（質問に対する回答）
 3. 明日から取り組めるリーダーシップ
 4. 店長のためのパワーソングの紹介
 5. プレゼントコーナーとエンディング

村尾隆介の「出版deブランディング」

（本テキストのもととなった音声セミナーです）

<http://www.starbrand.co.jp/services/voice/category/murao/>

経営者やプロアスリートなどの「個人のブランド戦略」にも深く関わる村尾隆介が軽快なトークで毎月お届けする音声セミナー。「これから出版をしたい！」「出版をしたものの、その後の自分の見せ方に悩んでいる」という全国の方々からの質問を中心に展開をしています。

また、この音声セミナーでは作家・村尾隆介の裏舞台もお見せします。今後の出版計画や、その時代背景、そして制作のノウハウや雰囲気は、ここでしか聞けない話。出版に興味を抱く方には、きっと参考になると思います。

この音声セミナーの内容（企画や時期によって変わることがあります）

1. オープニング…最近、本屋で感じたこと
2. 村尾隆介…未来の出版物（仮題の発表と秘話）
3. 出版に関するリスナーからの質問・回答（オンラインコンサル）
4. 集中心力を高めるためのパワーソングの紹介
5. プレゼントコーナーとエンディング

発行日 2013年4月30日第1版

著者 村尾隆介

執筆協力 三村真佑美

編集協力 三村真佑美

制作 Textrage 編集部

〒244-0804

横浜市戸塚区前田町516-1-B-110

MAIL : tr-inquiry@kigtas.jp

URL : <http://kigtas.jp/>

©2013 Ryu Murao, Printed in Japan

本作品の内容を無断で複製・複写・放送・データ配信などすることは、固くお断りいたします。